

# 喜茂別町ゼロカーボンシティ宣言

— 2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて—

喜茂別町は北海道の南西部に位置し、秀峰羊蹄山や尻別岳、喜茂別岳と四方を山々に囲まれ、面積の77%が森林で自然に恵まれた緑豊かな町です。また、盆地を展開する本町には、尻別川や喜茂別川が市街地を貫流し、大小41の川が町内を流れます。これらの豊かな森林や清流により、本町は古くから木材やアスパラガスをはじめとした農林業により栄えてまいりました。

また、本町では公共施設に地中熱を利用したヒートポンプ暖房などの導入、公共施設や街路灯のLED化など二酸化炭素排出抑制対策に積極的に取組むとともに生ごみのたい肥化、バークたい肥の活用といった有機農業をはじめ、町の資源を活用した地域循環型農業を支援し、持続可能な環境保全型の農業を推進しています。

気候変動による温暖化対策は世界規模での対策が求められており、地球上に生きる全ての生き物にとって、避けることのできない喫緊の課題であります。

この温暖化対策の解決のためには「2050年までに二酸化炭素排出量を実質的にゼロにすることが必要である」とされています。

近年、局地的な豪雨や台風の巨大化、冬季間の爆弾低気圧による暴風雪など自然災害が頻繁に発生しており、土砂崩れや河川の氾濫などによって、生命財産が脅かされる危機が迫っており、さらなる二酸化炭素排出削減の取組みが急務となっております。

このようなことから、本町の豊かな自然を子どもたちやその先の世代へ引き継ぐため、SDGs（持続可能な開発目標）の取組みや二酸化炭素の吸収源である森林の整備を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言します。今後、町民及び事業者の皆様のご協力をいただきながら、喜茂別町が一丸となって「ゼロカーボンシティ」を実現できるよう取組んでまいります。

令和3年3月9日

喜茂別町長

内村俊二